「保育内容・環境」における現場事例の活用について

Utilization of field cases in “Childcare content environment”

藤　原　照　美*

（令和４年７月25日受理）

要約

本研究の目的は、授業「保育内容・環境」において、保育現場の事例が学生の理解を促すことを目指すものである。学生が回答したアンケートを理論理解、事例理解を別々に分析し、事例をどのように学生に提供すると学修効果が上がるのかを調べた。

事例を理解し、幼児の心情を想像することができる学生は理論の理解も深まっていた。事例理解と理論の理解には強い相関があった。

事例を分類すると、発表スライドにまとめて整理された事例は、他の事例よりも学生には理解しやすいことが分かった。反面、個々の幼児の心情や場面だけで整理していない事例は理解が進まなかった。保育者には、現場で日々起こる事柄を整理する能力が必要である。今後、未整理の事例をいかに精選し活用するかをさらに研究を進め、授業改善をする必要がある。

キーワード：「保育内容・環境」、理論理解、事例理解
keywords：Childcare content “environment”, Understanding the theory, Case understanding

１．はじめに

筆者は公立幼稚園を定年退職後に本学に勤め、「保育内容・環境」の授業を担当して２年目をむかえた。現在、学生の指導には高等教育機関での学生指導の経験が浅く、まだまだ課題があると感じ、学生が保育の理論とともに実践力を身に付けるよう模索している。幼稚園教諭や保育士の指導力は経験を積んでこそ身に付くものだが、実際に経験を積む前の学生には現場の状況を想像しながら理論を学ぶよう指導したい。現場の状況をリアルに学生に伝えることが、筆者の実務経験教員としての役割と考えている。筆者の経験や事例をいかに学生に示し、学修に役立てるかを研究している。

２．研究目的

保育における＜環境＞とは大変概念が広いため、学生にとって理解が難しい領域になっている。また、教科書や参考図書、解説書などでは抽象的な言葉が並び、現場においては何が＜環境＞なのかは、学生には難しい。そこで、筆者の神戸市立幼稚園での40年間の経験と実践記録を学生に具体的に提供し、「保育内容・環境」について理解を促すことを研究する。貴重なオリジナル事例をどのように学生に示したら学修が進むかを研究する。

３．研究の内容と方法

授業「保育内容・環境」の目標は次の通りである。

- ➢現代の乳幼児を取り巻く、もの・人・自然・社会などの環境やその関りについて興味関心をもち、理解を深める。
- ➢乳幼児の発達に即した領域＜環境＞に関わる保育内容を構想する力や指導方法を学び、身に付ける。

教科書は「保育の内容・方法を知る保育内容環境」（小田豊・湯川秀樹編著　北大路書房）を使用

（＊ふじわらてるみ　保育科教授　幼児教育学）

している。教科書の構成に従って、授業者が現役の幼稚園教諭や園長として経験した事例を学生に示し理解を促し、その効果を調べる。以下の手順で進めた。

- 授業の参考になる事例の一覧を作成する
- 15回の授業について、毎回どの事例を示すか検討する。
- 実際に授業をして、学生にアンケート「本日の授業の学び」を書かせて、それを分析する。
  - 理論理解と事例理解を別々に評価して、その関係を調べる
  - 理解の進んだ学生の群とあまり進まなかった学生の群にどのような違いが見られるか比較する。テキストマイニングツール[1]を活用して、アンケートに現れる単語の傾向を調べる。

上のプロセスを通して、どの事例をどのように学生に提供したら学修効果が上がるのかを研究する。

３－１．授業教材

筆者の現場経験から集めたものの中で、授業に有用と思われる現場の事例について、表１に整理した。加工していないそのままの資料のため、学生に分かりやすいことを重視して精選した。

３－２．授業計画

授業計画に教科書の内容に加える事例を整理した。毎回の授業の内容について、学生の理解を促すためにどんな事例を取り入れたらよいかを検討した。表２のように授業のテーマにそった実際の幼児の姿を想像できる事例を整理することができた。

表１　授業で有用と思われる現場の事例や資料

資　料	内　　容
教育課程	幼稚園に入園してから修了するまでに子どもが身に付ける経験の全体を示し、その道筋を定めたもの。３園、10年分
長期指導計画	年・学期・月などの長期間の指導の見通しを表した計画。３園、10年分
短期指導計画	週・日などのより具体的な幼児の生活に即した計画。３園、10年分
１日の指導案	指導案数　約800日分800ページ
実践記録（ファイルにまとめている）	実際の保育内容と記録のうち特徴的なもの。20案件。以下に３例を示す。 ●チャボを飼育する子どもたち（「チャボが卵を産んでるよ」手を出すのが怖い。「こっちこんといて」、チャンスをみて卵を触ったら、温かい！） ●生活発表会の取り組み。一学期からの遊びを劇遊びに創作。「すみれ組の秘密基地のお話」 ●トマトを育てる子どもたち（苗運びから自分たちで。苗の葉っぱからトマトの匂いがする！あら、トマトの茎が折れた、どうしよう）
ppt スライドや写真	●PPT ➢「発達を捉えた環境の構成や援助の在り方について」研究会資料 ➢「伸び伸びと表現する子ども」研究会資料 ●写真 ➢幼児の遊び、環境構成に関するもの、行事・地域とのかかわり
保護者宛便り	●幼稚園だより　12通、絵本だより　５通、クラス通信　10通
防災に関する資料	●神戸市防災教育資料、安全計画、防災マニュアル、防災グッズ
保育に活用する身近な素材	●牛乳パック、箱、毛糸、リボンなどの素材
手遊び・歌・体を動かす遊び	●保育に活用した遊びを実演、紹介する ●上に必要な楽譜
児童文化財の提示紹介	●絵本、エプロンシアター、パネルシアター、紙芝居、パペット
生活発表会の指導計画や脚本	●「秘密基地のおはなし」創作、「アルプスのおはなし」創作、その他。10年分
オリジナルな教材（先生手作り）	●言葉遊び「いろはにこんぺいとう」用ペープサート ●紙芝居「あめふりくまのこ」、「でてこいでてこい」 ●歌遊び「JUMBO」
幼稚園行事に関する案内状・カード・プログラム	●誕生日おめでとうカード ●運動会、音楽会、生活発表会等案内状・プログラム（七夕まつり、運動会、音楽会等）
子どもの作品	●実際に指導した絵、造形作品、手作り紙芝居、絵本の写真

表２　授業計画と取り入れた事例と学生の感想

授業内容	取り上げた事例	学生の感想
第１回オリエンテーション 授業概要、授業の目標、授業方法、評価方法の説明	フォトカンファレンスのために、写真「砂場遊び」「生き物との触れ合い（アリ）」を学生に提示し、場面を想像させた。 「砂場遊び」では場所は分かったが、活動内容、興味、友達関係までは想像できなかった。１枚の写真を見て、見える場面だけでなく、見えない子供の興味や友人関係を想像することで学生の幼児理解を深めさせたい。	アンケート「本日の授業の学び」は実施せず
第２回「環境」の意義 領域「環境」の理解を深め、「環境を通して行う保育」の意義について学ぶ	事例「不安定な幼児とのかかわり： あきと教師の一学期」 父親に「あき、可愛くない。お姉ちゃんはママに似て美人やのに」とよく言われる。あきは毎朝元気なく登園してくる。あきは毎朝、「先生、私のこと好き？」と問い、担任が「あきちゃんのこと大好きよ」と答え、抱きしめるという日々の繰り返し。 学生の心に伝わったようだ。学生に不安定なあきの心の動きを想像させ、教師の具体的な援助を考えることに役立った。	・あきちゃんと毎日同じ会話をし、安定していったことが私も嬉しいです。 ・毎日「好き？」と聞いてハグするルーティーンは子どもにとって不安な幼稚園に興味をもったり、それを楽しみにしたりすることで「早く幼稚園に行きたい」ってなってすごくいいなって思いました。 ・先生の体験談を話してくださる事で身近に保育を感じることができ、聴いていてとてもウキウキしていました。
第３回乳幼児の発達と理解 乳幼児の発達と環境の関りを発達的特性から読み取り、「環境にかかわる力」を育てるために必要な保育者の援助を考える	身近な環境が幼児の心の安定や友達への関心につながっていくことを学生に理解させるために、事例「いくちゃんと小動物とのかかわり」を取り上げた。 初めての集団生活で不安定ないくちゃんがウサギに興味をもったことがきっかけでクラスの子どもたちとも遊べるようになった。 幼児の変容、教師の援助、教師の読み取りとは何かを学生に考えさせることに役立った。	・保育者になったら先入観で環境をみるのではなく、新鮮な気持ちで見て感じて子どもたちと感動できたらいいなと思った。 ・学ぶ分野がそれぞれに分かりやすく、子どもとの関わり方を伝えてもらうので実習に活かそうと思った。 ・子どもと関わるときは目に見えていることだけではないと学んだ。 ・保育者も子どもたちのように好奇心や探求心をもって子どもと関わらないと子どもたちの好奇心や探求心に気付かない。
第４回好奇心・探究心 好奇心・探求心を育む保育の特性を知り、環境構成・援助の在り方を学修する	幼児の数量・図形・文字・標識の認識の事例。 「芋堀後、芋を並べる」「保育室の椅子を並べて遊びに活用」「子どもとタケノコの背比べ」など。 学生は自身の幼児体験も重ねながら、幼児期から遊びの様々な場面で自然に数量・図形等の概念を取り入れていることを理解できた。	・子どもは大人が見逃がしてしまいそうなことに興味や関心をもったりするのでそこに注目したい。 ・事例から小さい頃の好奇心を思い出した。先生が最初からいろいろ教えてくれるよりも自分で不思議に思ったことを見付けて考えることの方がおもしろかった。 ・不思議の元を一生懸命探している子どもたちの情景が鮮明に想像することができた。
第５回思考力の芽生え 乳幼児の思考力の芽生え、広がりや深まりについて、「環境」との関係性や保育者の援助を学ぶ	「にこにこくるくるきらきらコンサート」は幼児が自主的に学級活動としてコンサート開催を目指した事例。 プログラム内容（歌や合奏、ダンスなど）と舞台の道具や看板について幼児の考えを出し合った。 幼児の何でもやってみようとするパワーとそれを支える教師の存在が大切であることを学生に理解させた。幼児が達成感を味わえるようにするのは保育者の力量であることも事例を用いて伝えた。	・大きな積み木でステージを表現したり花壇に粘土の作品をさしたり、より一層華やかに表現していた。ワクワクするお部屋だと感じた。 ・写真を見ていると子どもたちの中にアイデアがどんどん生まれて、それを保育者は受け止めることが大切だと思った。 ・子どもがやりたいことをできる限り実現できるようにすることも大切だと思った。

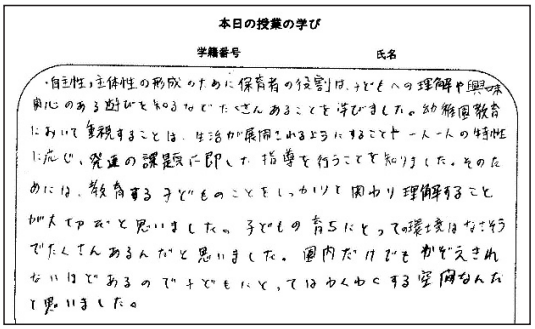
第６回人的環境とは 人的環境の保育的特性を知り、発達段階に応じた環境の在り方を学ぶ	事例「竹馬」「七夕飾り作り」を、写真を用いて学生に提示した。 １　竹馬に乗れない幼児に友達が乗れるようになるためのヒントやコツを根気強く教えてくれる友達の様子。 ２　七夕飾りを友達と一緒に作っている写真では、四角つなぎを長くつないでいることだけではなく配色、デザインに幼児の工夫が見られる。 幼児の何を認めるか学生に考えさせ、具体的に教師の言葉かけや受け止め方を示した。学生は幼児の満足感を得られる認め方を学べた。	・子どもの「先生、見て！」という気持ちは、凄いと褒めるだけではなく、その子の工夫したところなどを発見し、子どもの納得する褒め方をすることが大切と学んだ。 ・友達といることで、考えを共有し刺激を与え合うのが素晴らしい。 ・自分が小さいときから周りの友達に支えられてきたと思う。 ・子どもの話をさえぎらないということも本当に大切だし子どもの信頼もつかめると思った。
第７回物的環境とは 物的環境とは何かを知り、乳幼児の育ちにつながるふさわしい環境について学修する	パワーポイント『発達を捉えた環境の構成』 幼稚園の全景、幼稚園配置、環境構成への工夫・配慮、人的・物的環境、日々の遊び、行事への取り組みなど、園全体の環境の構成を示したもの。 物的環境に重点を置き、乳幼児の育ちにふさわしい環境を見付けだせるように、学生に意見を求めながら進めた。物的環境を見る視点が理解でき、今後の実習に役立てられる。	・今まで何気なく保育の場で使われていたものから細かいものまで全て環境に関わっていることを知り、驚いた。 ・保育者の温かな援助を通して環境がデザインされていることは知らなかった。 ・見た写真の中で、雑草をあえて生えさせておくというのがあり、なるほどと思った。園で自然に触れることができるのは良い。
第８回自然環境とは 自然環境が及ぼす乳幼児の育ちを考える。自然環境を活用した実践事例を通してその意義を理解する	実践記録「１トマトを育てる子どもたち」「２チャボを飼育する子どもたち」を活用する。 １は、幼児がトマトの栽培は苗から実を収穫するまで継続して世話をする実践。２は、チャボの飼育を通して友達の様々な思いに気付きながら世話をする様子の記録。 幼児が生き物の命を感じるように教師はいかに援助したらいいかを学生に考えさせた。次の２点を課題プリントに記入させた。幼児の心理と保育者の援助について考えさせた。 難しい課題だが、２つの資料には現場のリアリティがあり、何回も読んで幼児の姿を想像し、教師の援助を捉えることができた。指導計画の立案、実践に役に立つ。	・野菜の栽培を通して､友達と協力したり、植物への不思議について考えたり、大切に育てようという気持ちを持つことができるのは子どもの頃の感覚だと思った。 ・子どもが育っていく中で、身近な自然環境から感じ育っていくものがあることが分かった。 ・「命の尊さを知る」ことが自然を感じながら学べる。 ・動物は苦手だけれども勇気を出して、子どもにカッコイイ姿を見せたいから頑張れる気がする。 ・子どもたちは自分が思っている以上にたくさんのことに気が付いて感じて生活していると思った。 ・保育者の援助の仕方によって子どもが思うことが変わる。私も子どもに寄り添える保育士になりたい。
第９回日常生活での中での興味や関心 乳幼児の生活の中で物事の法則性に気付く場面やその他興味・関心をもつ場面について知り、指導の在り方を学ぶ	事例　ツバメを守る作戦。 保育室の近くにツバメの巣ができた。ヒナをカラスから守る作戦を子供たちが考えた。巣の近くのフェンスにキラキラおどしを作ったり、カラスに手紙を書いたりした。内容は「こんどきたら、みんなからすのことがきらいになるから」 遊びの中で幼児が図形に興味をもったり文字を書いたりしている場面を取り上げた。学生は子どもたちの作戦とともに子どもらしい感性に気付くことができた。	・子どもの意見きちんと聞くことが大切だと思った。 ・子どもの一つ一つの行動には意味がある。子どもの行動にどんな意味があるのか考えられるようにしたい。 ・子どもの発想を大切にすることを学んだ。これから子どもの気づきを大切にして、保育現場でも実践できるようにしたい。

第10回日常生活における暮らし文化 日本の伝統文化・異文化について調べる。グループワークを通して学びを深める 第11回地域・行事との関り① 地域・行事にかかわる意義	事例１　壁面作り 保育室の壁面を真っ白な状態から、幼児が自分たちのアイデアで大きな作品を完成させた。 壁面は教師が作るものという考えの学生もいた。５歳児のこの自発的な活動に学生は感心した。 事例２　「地域・家庭とのつながり」 絵本の読み聞かせをしてくださる「ブックママ」の皆さん、七夕に笹をくださる地域の方、交通安全を見守ってくださるお巡りさん・・・。有野幼稚園にはたくさんの応援団がいます。（『有野幼稚園応援団』[2]） 園を取り巻く地域の支援の多様なことや深いつながりに学生は驚いていた。地域とのつながりを深め信頼関係を築くことが幼児の育ちに多くの影響をもたらすことが理解できた。	・子どもたちが自分たちで壁面を作るのは達成感が凄い。大人では思い付かないこともありそう。 ・先生が紹介された幼稚園応援団は、子どもたちがどんな人とつながっているのかに気付き、感謝の気持ちにつながる。 ・私が小さい頃を思い出し、たくさんの地域の人のおかげで様々な体験ができていると改めて思った。 ・応援団の図を見ていると、私が思いつくよりもたくさんの見守ってくださっている方がいると思った。 ・「ものを大切にする」話を聞き、少し「ドキッ」とした。私は片付けるのが苦手で子どもたちに注意できるかと思った。子どもたちに声をかけながら自分も心がけていかないといけない。
第11回地域・行事との関り② 地域・行事にかかわる力を育てる	１　事例「高齢者とのかかわり」 近隣の介護老人施設の高齢者の皆さんと年二回交流をしている。毎年６月には「雨だれコンサート」。園児は歌や表現遊び、高齢者の皆さんは懐メロを披露。プログラムの最後は園児が高齢者の皆さんの傍でみんな一緒にリズム体操を楽しんだ。 学生は高齢者とのふれあいの意義や幼児が予想以上に多様な経験していることを感じ取れた。 ２　事例「環境を整える。自分たちでできるよ」 トイレの床にスリッパマークを付けて、指導して、できたらほめる。この繰り返しで、幼児はスリッパをきれいに揃えると次の人が気持ちよく使えることがわかる。幼児がトイレのスリッパを揃えている姿を地域の方が褒めてくれた。 学生に事例を話し、トイレのスリッパや掃除の場面の写真を見せた。学生は、自分自身も十分できていないことに赤面しながら、幼児の行動に驚いた。幼児のできることは予想以上であることに気づいた。幼児が自分たちで過ごしやすい環境をつくることができるということを理解した。	・小さい頃、このような機会があったが、意味も分からず、好きではなかった。ずっと受け継がれてきたことを伝える大切な関わりの一つだったと知った。 ・様々な世代の人と関わることができ、高齢者の方は良い機会になり、元気が出たり体を動かしたり、お互いに新しいエネルギーをもらえると思った。 ・子どもたちが遊びの中でしぜんと生活習慣を身に付けるためには保育者の工夫した環境がとても大切だと分かった。 ・トイレのスリッパの話を聞いて、そんな細かいことも先生は見ているのかと驚いた。 ・家庭・地域との関わりが園を卒園してからも続いていくのかと思うととっても大切な関わりだと思った。関りが深まるにつれ地域全体で子どもたちを育て守ることができる。子どもたちが安心安全に外で遊べるようになると思った。
第12回地域・行事との関り③ 行事は子どもにとって「発達」の節目となるもの、その在り方や参加の仕方を考える	提供した事例なし。 「運動会の意義」６グループに分かれてグループワーク。 発表。	・運動会は子供の成長の発表の場であり、親や地域の人々と最も関われる行事なのでとても大切なものだと思った。 ・２年後に自分が現場に立った時のミーテングや行事の話し合いでは自分の意見がしっかり具体的に言えるように、実習を通して得られるものがあればいいなと思う。

第13回道徳性の芽生え 道徳の概念、道徳性を育む保育や保育者に必要な倫理観について考える	事例　わかば通信「喧嘩による育ち合い・幼児同士で解決していく」 劇遊びの最終場面の演出のことで、たかくんとゆきくんが口喧嘩。だんだん激しい口調になり、「もう、幼稚園嫌いや」「家で遊んでいる方がいいわ」「友達なんかおらんでもいい」・・・。 周りの子どもたちは必死で喧嘩をしている二人を気遣ったりなだめたりしました。 幼児が相手の立場に立って考えられるようになるためには友達と関わり、感情の行き違いから起こるトラブルの経験も必要である。この事例は言い争う二人の心情がリアルに伝わる。学生に幼児の喧嘩をどう捉えるか、どのように解決するか考えさせる。保育者自身の道徳性に関する考えが幼児に及ぼす影響や倫理観について考えさせる。	・喧嘩をしている友達のことをよく分かっているからこそできる声掛けをしていた。曖昧にして終わりでなくきちんと解決しようとする姿が凄いと思った。 ・喧嘩は悪いものということが頭にありましたが、喧嘩は時として学びの種になると思った。 ・保育園のアルバイトで子どもたちが喧嘩をすると必ず周りの子どもたちがこの子が悪いと言ってくる。どのように解決するか学んではいるが実際に目の前にしてみると「あなたが悪い」と言ってしまうことが多い。今日の授業を聞いて、道徳性は子供の成長に関わってくるので、もう少し考えてみようと思った。
第14回乳幼児の安全環境 安全環境、安全教育、防災教育を学ぶ。危機管理能力を身に付けるための意識を高める。	幼稚園で実施している避難訓練、安全点検について具体的に話す。 安全計画　防災マニュアル　防災グッズを紹介する。 阪神淡路大震災後、東北での震災、最近では土石流での災害等が各地で起きている。学生の危機意識を高め、危機管理能力が身に付くように資料を提供する。	
第15回学修の振り返りと確認 学修の振り返り、質疑応答	教科書の章ごとのポイントを確認する。学生が学んだことや今後実践したいことなど発表する。	

３－３．事例理解と理論理解

学生に「本日の授業の学び」という名前でまとめ文章を提出させている。この文章から、学生の保育理論の理解と事例理解の度合いをそれぞれ３段階で評価した。


本日の授業の学び

学籍番号　　氏名

・自主性、主体性の形成のために保育者の役割は、子どもへの理解や興味・関心のある遊びを知ることたくさんあることを学びました。幼稚園教育において重視することは、生活が展開されるようにすること＋一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うことを知りました。そのためには、教育する子どものことをしっかりと関わり理解すること が大切だと思いました。子どもの育ちにとって環境はなにそうでたくさんあるんだと思いました。園内だけでもかぞえきれないほどであるので子どもにとってはわくわくする空間なんだと思いました。

図１　学生の記入例

理論理解については授業内容を十分理解しその授業での大切なポイントを抑えていることと、自分のこととして考えているかどうかで評価した。

事例理解については、幼児の活動と教師の援助双方を見ているか、また幼児の内面を推し量ろうとしているかをポイントに評価した。５回の授業について傾向を調べたものを次に示す。

表３　理解の評価の例

学生番号	理論理解	事例理解
1	2	1
2	2	2
3	2	3
4	2	1
5	3	3
6	2	2
7	3	1
8	2	1
9	2	1
～　略　～		

第２回講義

領域＜環境＞の理解を深める内容である。特に環境を通して行う保育について、幼児に環境と関わる力を育てること、そのためには保育者の価値観（子ども観・保育観）が幼児の育ちに大きく影響することを学ぶ。

取り上げた事例は、「不安定な幼児とのかかわり：あきと教師の一学期」である。事例については理解の程度が分かれた。「よく理解している」に至ったのは58名中23名（40％）と少ない。学生にとって、文章だけでは現場の担任の感覚を想像することは難しいようだ。特に事例の登園時に幼児一人一人の様子を観察把握するベテラン教諭の感覚を想像することは難しかった。

また､事例を深く理解できた23名のうち10名は、さらに＜環境＞について理論的にも理解できている。これは、事例を一般化して理論につなげたことを示している。事例が理論の理解をも深めた例といえる。

表４　第２回講義の理解状況

第２回講義　n＝58	理論理解		
事例理解	１理解が浅い	２ほぼ理解	３よく理解
１理解が浅い	0	12	1
２ほぼ理解している	0	21	1
３よく理解している	0	13	10

第７回講義

今回の事例は、『発達を捉えた環境の構成』と称したPPTスライドである。幼稚園の全景、幼稚園配置、環境構成への工夫・配慮、人的・物的環境、日々の遊び、行事への取り組みなど、園全体の環境の構成を示したものである。物的環境について現場の様子を解説したので学生は具体的にイメージできた。一人の園児に焦点をあてた事例でなく、構成したものであり、学生には理解しやすかった。49名中30名（61％）がよく理解できた。

スライドの後、物的環境について学生一人一人が考えを発表した。その発表を通して、幼児を取り巻く物的環境が多種多様であることを実感できた。その分、理論理解も好調で事例をよく理解できた30名のうち23名（77％）が理論理解も深まった。

表５　第７回講義の理解状況

第７回　n＝49	理論理解		
事例理解	1	2	3
1	0	3	0
2	0	8	8
3	0	7	23

第８回講義

この授業では１「トマトを育てる子どもたち」２「チャボを飼育する子どもたち」の２事例を取り上げた。事例は幼児の姿、教師の援助・願い等を細かく記録したもので、事例を通して①「子どもの思い、気づき、考え、凄さ、パワフルなところ」など読み取る。②事例を通して「心に残る保育者の援助」（子どもの気持ちに寄り添っている、援助のタイミング、保育者の願いが伝わる援助など）を読み取るものである。こういう具体的な幼児の様子を示した事例の理解は難しい。53名中よく理解できたのは17名（32％）と少ない。保育経験がない学生には、幼児同士の育ち合いや教師の援助を読み取るのが難しかった。授業担当者も学生にふさわしい課題であるかどうか予想が甘くこのような結果になってしまった。

表６　第８回講義の理解状況

第８回　n＝53	理論理解		
事例理解	1	2	3
1	0	0	0
2	0	27	9
3	0	10	7

第10回講義

地域や家庭とのつながりを示す事例を通して、幼児が地域・行事にかかわることの意義への理解を深めるテーマで実施した。

理解の程度は「よく理解している」が49名中22名（45％）、「ほぼ理解している」が24名（49％）と、授業のねらいはほぼ達成できたと考える。学

生が幼児期に体験している行事もあり、自身に置き換えてイメージすることができていた。取り上げた事例は幼稚園の子どもたちを地域の様々な人が応援していることを図式化しまとめたもので視覚的にも学生には理解しやすかった。特に地域の人と一緒に幼稚園近隣の駅前広場クリーン作戦に参加する事例は園児の軍手姿や箒で掃く様子が印象に残ったようだ。事例理解には効果的だった。

表７　第10回講義の理解状況

第10回　n＝49	理論理解		
事例理解	1	2	3
1	1	3	0
2	0	12	12
3	0	11	11

第11回講義

取り上げた事例は「高齢者とのかかわり」、幼稚園と近隣の介護老人施設の高齢者と年間２回であるが、継続した交流を行っている。理論理解、事例理解は54名中21名（39％）がよく理解できた、29名（54％）がほぼ理解できたとなった。事例を通して、学生は交流に向けた具体的な事前準備のこと、年齢・境遇・状況などを考慮した綿密な計画、幼児と高齢者がともに喜びや楽しさが味わえる内容や進行などの様々な配慮について知ることができた。

表８　第11回講義の理解状況

第11回　n＝54	理論理解		
事例理解	1	2	3
1	0	4	0
2	0	21	8
3	0	10	11

３－４．理解の進度別２グループの比較

第２回講義のアンケート評価をもとに２グループに分けた。Ａグループは理論、事例ともによく理解した10名の学生、Ｂグループはいずれの理解もあまり進まなかった12名である。このアンケートをテキストマイニングツールで、どんな名詞の出現頻度が高いか、また、どんな語が一つの文に含まれているかを調べたものを表９に示した。

Ａグループでは、「子ども」「環境」の出現頻度が多く、子どもと環境をつなげて考えようとする姿勢が見られ保育者としての意識が高い。重要語「遊び」、「声掛け」がしっかり出ている。この回の授業で取り上げた事例がよく理解できている。

Ｂグループでは、授業者から飛び込んでくる耳に残った言葉を書いているに過ぎない。保育者の立場で考えようとする視点がない。重要語「遊び」、「声掛け」がない。幼児期は遊びを通しての総合的な指導をすることが大前提であることの理解がない。

表９　アンケートに現れた名詞

名詞の出現頻度	Ａグループ	Ｂグループ
	子ども	
30	環境	
25		
20		環境、子ども
15	保育、大切	
10	保育者、子どもたち、遊び	保育者
5	声掛け	自主性、主体性、大切、興味

次に、アンケートに現れた語の文中でのつながりを調べたものを図２、図３に示した。

Ａグループでは、「子ども」から多く語がつながっている。幼児の姿を具体的にイメージできていることが伺える。「保育者」の言葉からも多くのつながりや広がりが見られる。「声」「掛け」「尊重」「難しい」の語が「保育者」とつながることは当然である。保育者が幼児の育ちに及ぼす影響、役割などを考えることができた。

Ｂグループでは、語のつながりが少ない。理解ができていない。物的環境が「園」「庭」「砂場」のみと少ない。授業中、「物的環境」を具体的に示した学生の発表があったが、Ｂグループの学生には十分理解できていなかった。おもちゃを片づける際の保育者の工夫を写真で示したことは具体的で比較的理解しやすかったようだが発展がない。幼児の心情面を表す語が少ないことから、幼児理

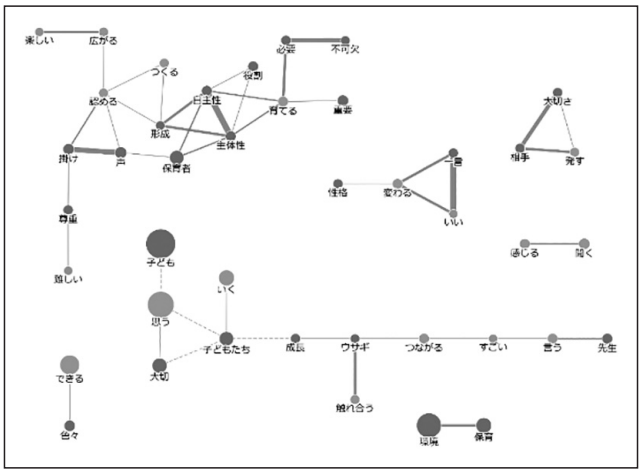


図２　アンケートに現れた語の文中でのつながり（Ａグループ）

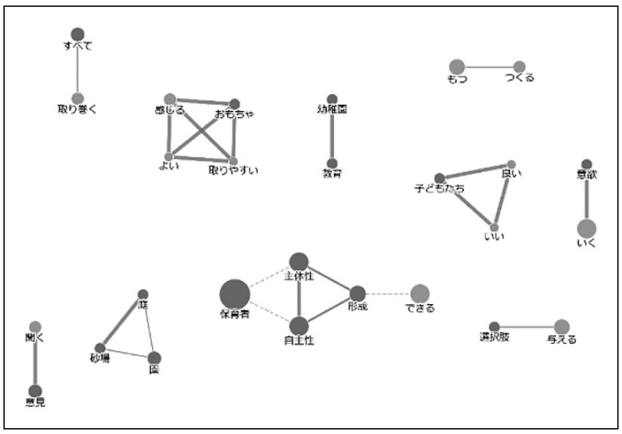


図３　アンケートに現れた語の文中でのつながり（Ｂグループ）

解が浅いことが伺える。

４．考察

４－１．学生の傾向

学生が理解しやすい事例は、１幼稚園の概要を解説したもの、２幼稚園の行事を取り上げたもの、３個々の幼児の心情を取り上げたもの、という順になっている。現場での重要度とは逆の順になっているが、３は職歴を通じて研鑽すべき内容であるから、難しいことは当然である。

また、事例理解の程度は理論の理解を助けていることも分かった。事例だけで「あっ、そう」で終わるのでなく、「つまり、こういうことですね」と自分の言葉で表現できたり、「教科書の解説はこの事例の『たか君』のことですね」と理論化、一般化できたりすることが重要であることが分かった。

学生は実践事例には関心を示し、それを入り口として授業を進めると、理論理解が進む。事例から、幼児の心理を想像することは、保育者として必須の能力である。

今後、実際の幼児同士のやりとり、幼児の気持ちの変化、その時の教師の対応に重点を置き、場合によっては状況をロールプレイで再現して深めるよう工夫していきたい。

４－２．事例提示の工夫

今回、筆者のオリジナル事例を効果的に学生に示す方法を研究した。学生にとって理解しやすい事例は、第７回講義のような現場での発表資料PPT のように、ある程度事柄を咀嚼してまとめてあるものである。まずは整理してから学生に提供する必要がある。

しかし、現場で日々の出来事は誰も整理してくれない。整理した資料だけでなく、現象のみを学生に提示して考えさせることは将来、現場に立った時に必ず役に立つ。第８回講義のような「トマトを育てる子どもたち」、「チャボを飼育する子どもたち」の事例は未整理の事例である。この理解は難しいが、頑張って理解した学生は理論の理解も進んでいることが分かった。学生が理解しにくいと思われる未整理の事例も時には取り上げる必要がある。

未整理の事例は精選する必要がある。例えば第８回授業テーマ「自然環境が及ぼす乳幼児の育ちを考える」では飼育栽培活動の事例を２例取り上げたが丁寧に解説を加えないと授業のねらいに到達できなかった。一つに絞って、時間をかけて読み取りをするべきである。

５．今後の課題

事例理解のためには、教員と学生双方向のやりとりが重要である。事例をもとに学生が発表し、教員が適切な質問をして理解をさらに深めさせるようにする。学生は「本日の授業の学び」で事例を咀嚼し、自分の言葉で表現する。特に理解が進んでいるもの、自身の考えで書かれているもの、素朴な疑問を重視し、一部であってもそれらを次の授業で紹介する。

実践事例は自身の経験であるので、保育の状況がクリアに浮かび、ありのままの幼児の姿を伝えられる。対応に苦労した実践事例では、その幼児の背景、家族のこと、家庭訪問時のことなど鮮明に思い出され、学生にも事実をそのまま伝えることができる。そのときに教師が悩んだことや苦労したことは特にリアルで説得力がある。学生が将来に不安をもたないようにその後の継続した対応や信頼関係が築けたことなども伝え、前向きな気持ちがもてるようにすることも大切である。

理論理解、事例理解について理解を深め、さらに保育力を身に付けるために模擬保育を取り入れる。模擬保育はねらいに応じて教師役や子ども役のパターンを綿密に確認し幾通りも実践する。

事例の読み取りや保育計画を立てる場合に、幼児の活動内容を自身の幼児体験とつなげて考えるようアドバイスするとヒントになる。

６．おわりに

「保育内容・環境」の授業における現場事例の活用について調査した結果、整理された事例はすぐに学生の理解に役立つことが分かった。しかし、個々の幼児の心情を取り上げた事例は理解が進まなかった。未整理の日々の出来事の事例を学生に提供する方法をさらに研究する必要がある。日々の出来事を整理することは保育者の重要な仕事である。どの場面でどの事例を取り上げるか、いかに精選するかさらに研究を進め、今後も現場事例の活用を継続し授業改善につなげたい。

〈参考文献〉

１．小田豊・湯川秀樹編著『保育の内容・方法を知る保育内容環境』北大路書房（2015年）
２．文部科学省『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館（2018年）
３．内閣府、厚生労働省『認定こども園教育・保育要領解説』、フレーベル館（2018年）
４．厚生労働省『保育所保育指針解説』、フレーベル館（2018年）
５．久保健太・髙嶋景子・宮里暁美編著『保育内容「環境」』ミネルヴァ書房（2021年）

〈参考資料〉

１．テキストマイニングツール
https://textmining.userlocal.jp/
２．幼児期における躾実践モデル後期事業　家庭や地域と共に取り組む躾カリキュラム集Ⅱ　神戸市教育委員会（2017年）